

もっと利用したくなるような図書館にするには

C1240078

朝倉陽人

1, はじめに

私が今回検討するテーマは「これまで以上に利用したくなるような図書館」だ。これを実現するために私が公益大の図書館に行って感じたことや現状の課題を踏まえて考えていくこととする。

①共感

今以上に利用したくなるような図書館に向けてインタビュー・観察・体験を実施した。まず、インタビューの質問内容として今の学校の図書館について思うことを聞いた結果、エアコンが効いていない、娯楽として楽しめる本を置いてほしいという要望があった。そして、私自身の観察・体験は図書館の2階で勉強をした。その結果感じたこととして、室内が暑い、席をもう少し増やすことが必要と考えた。

②課題定義

インタビューの内容を踏まえ、潜在的ニーズとして考えられることとして、個室が欲しいのではないかということや無料で何か飲めるようにしてほしいということを求めているのではないかと考える。

これらのニーズからの課題定義として、どうすれば快適で勉強がしやすい図書館にすることができるのかということが考えられる。

③プロトタイプの提案

まず、課題解決に向けてのコンセプトとして「周りの目を気にすることなくリラックスしながら勉強できる図書館」とする。また設定したコンセプトから私が考えるプロダクトとしては、「周りが一切見えないような鍵がついている個室を作る」、「楽しく読めるような漫画を設置する」、「無料で飲み物を提供する」等などを考えることができる。これらのプロトタイプを提案することで周りの目を気にすることなく効率的な作業や勉強を行えることや漫画などの娯楽本を設置することでよりリラックスでき、有意義な時間を過ごせるというメリットがある。一方で、鍵付きの個室を作るためには莫大な費用がかかるため、設置が難しいという問題や、個室を設置するための十分なスペースがないという問題もある。設置が困難ではないかという課題がある中でも私は、これらのプロダクトは集中力が上がるだけでなく、休憩の間に娯楽として楽しめるものがあるためコンセプトに合致していると考えられる。

④期待される効果

個室を作ることで周りの目を気にすることなく集中して勉強ができ、そして自分のペースで勉強・休憩をとれるため意義の時間を過ごすことができる。

おわりに

このレポートでは今以上に利用してもらえるような図書館について検討した。その結果、コンセプトに合致したプロダクトを見出すことができたが、設置が困難である課題も見つかった。今後の課題はプロダクトから生ずる課題解決策を検討することにある。